

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	商店街（代表者）	・観光客の入込が昨年よりも多くなることが見込まれる。
		商店街（代表者）	・2～3か月後は夏物の最盛期であり、バーゲン時期にも当たる。今月の初夏物の動きからみると、売上が上がってくるが見込まれる。
		スーパー（企画担当）	・来客数が回復しており、前年実績をほぼ確保できている傾向から、2～3か月後もやや良くなることが見込まれる。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数も買上点数も安定的に推移していることから、2～3か月後もやや良くなることが見込まれる。また、雇用が好転してきたのか、各店舗でのパートの募集が以前より難しくなったとの声も聞こえてくるようになってきた。
		コンビニ（エリア担当）	・団塊世代の消費が追い風となっているのか、一時期のように限られた商品のみを購入するのではなく、デザートやビール、ワイン、ウイスキーなどのぜいたく品の販売が好調になってきている。
		高級レストラン（スタッフ）	・周年記念のイベントを設定しているので、少なからず売上が増加することが見込まれる。ただし、地域においては経済の上向き傾向がなく、あくまでも企業的な戦略によるものである。
		観光型ホテル（経営者）	・道外からのツアー客の入込は、前年と同様に堅調であり、総消費単価も続伸していることから、今後についても期待できる。
		旅行代理店（従業員）	・高額な海外旅行商品が好調に販売を伸ばしており、今後についても期待できる。
		旅行代理店（従業員）	・4月の販売額が好調であったため、今後についてもやや良くなることが見込まれる。
		旅行代理店（従業員）	・現在、前年度と比べて10%程度売上が伸びており、今後についても期待できる。
		観光名所（役員）	・ゴールデンウィーク以降の予約状況が強含みであり、今後についても期待できる。
		美容室（経営者）	・ここ数か月連続で、売上が前年を5%程度上回っていることから、客の購買意欲が出てきているように感じられる。
		その他サービスの動向を把握できる者	・例年よりも高山植物の開花が1週間程度早まっていることから、予約の出足が早く、比較的好調に推移している。
変わらない	変わらない	商店街（代表者）	・業種により若干のばらつきはあるが、商店街全体としては消費を刺激するような要素も無く、トレンドに変化はみられないことから、今後の消費動向も現状と変化が無いと見込まれる。
		百貨店（売場主任）	・相変わらずの天候不順が予想され、特に5～6月と寒さが続くようなので、夏物の動きが懸念される。また、クールビズも3年目に入り、状況が読めないところもある。
		百貨店（販売促進担当）	・道内においては、景気や消費動向が改善するような明るい話題に欠ける。一方で、商業施設の新規オープンや増床、拡大などが目白押しであり、小売業では増えないパイを奪い合う構図がしばらく続く。
		スーパー（店長）	・毎月一進一退が続いている状況である。衣料品は、気温の推移に大きく影響される。液晶テレビ、携帯音楽プレーヤー、新機能付きの白物家電を除いた日用消耗品については、競合店との価格競争に影響される。気温の推移が影響する面が大きく、一方、食品は、依然として生鮮食品が前年実績を上回って堅調に推移している。
		スーパー（企画担当）	・買上客数はほぼ前年実績の水準で推移しているが、客単価は引き続き低下している。特に、販売単価の低下傾向は、月々の上がり下がりはあるものの、底を打つような動きになっていない。
		スーパー（役員）	・3か月前と比べて、客の動きも単価も売上もそう大きな変化はなく、今後についても変わらずに推移する。
		コンビニ（エリア担当）	・建築工事従事者の来店が好景気の要因となっているが、工事需要が継続しているため、当面は好調が持続することが見込まれる。
		コンビニ（エリア担当）	・道路、ホテル等の工事需要が継続しており、工事従事者による利用が引き続き見込まれることに加えて、一般小売店の閉鎖も継続していることから、今後も現状の市場環境が継続する。

		乗用車販売店（従業員）	・春闘、春の賃上げにおいて、大幅な値上げはみられなかったことから、今後も変わらないまま推移する。
		高級レストラン（スタッフ）	・地域別の来客数をみると、道内客が前年比160%と増えている。ビジネス客の増加が中心であるようだが、景気が上向いてくるような傾向がうかがえる。
	やや悪くなる	スーパー（店長）	・朝、開店前に並ぶのは年金生活者が多く、目玉品しか売れない。こうした傾向がずっと続いている。景気が上向くような材料が今のところ見当たらず、今後も変わらないまま推移する。
		家電量販店（地区統括部長）	・昨年は、サッカーワールドカップ等のスポーツイベントや札幌地区における地上デジタル放送開始等の特需があり、需要を喚起していたが、今年はそうした特需が無いため、厳しくなることが見込まれる。
		スナック（経営者）	・今月は市議会選挙があり、客が外出しにくくなった影響もあるが、これまで商売してきた中で宴会も何も無かった年というのは初めてであったことから、今後については少しは上向いても、あまり期待はできないと見込まれる。
	悪くなる	-	-
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業（団体役員）	・統一地方選挙が終わり、新市長が誕生したことで、地域に達成感が生まれ、明るさが見込まれる。
		金属製品製造業（経営者）	・受注量が少しずつ増えてきており、2～3か月先についても少しは良くなるが見込まれる。
	変わらない	出版・印刷・同関連産業（役員）	・勝ち組、負け組の格差が大きくなってきており、本州企業、道内大手企業等の少数の勝ち組に仕事が集中してきている。仕事量そのものが減少してきている中で、道内の地場中小企業は仕事を集めるのも困難になってきている。
		通信業（営業担当）	・ここしばらく景況感は緩やかではあるものの上昇傾向にあると感じていたが、周囲の取引先の動向や言動からは先の需要に確固たる数字が見えていない様子も感じられるため、景況感が横ばいになる可能性が高いと感じている。
		金融業（企画担当）	・原料価格の高止まりから企業収益は厳しい。官民ともに所得は伸び悩んでおり、個人消費は弱めの動きが続いている。一方で、来年のサミット開催地が洞爺湖町に決定したことで、夏以降の観光客の増加が期待できる。総じてみれば景気は横ばいで推移する。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・道内の建築工事量の少なさは変わらないままである。自動車関連産業の工場進出による金属加工業への波及も多くは見込めない。
	やや悪くなる	-	-
	悪くなる	-	-
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・中途採用、派遣ニーズはしばらく続くことが見込まれる。企業業績はまだ回復までには至っていないが、経営者の心理が悲観的な状況からやや前向きになってきており、大量ではないが人材をそろえて、次の展開を計っているように感じられる。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・地域全体の人口減少傾向の中で、若年労働力の不足が各業種で顕在化している。特に土木、小売、サービス業で若手人材が集まりにくい状況が続いている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・求人が好調な業種の顔触れが昨年から固定的である。今後、求人傾向が急激に好転するとは考えづらい。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・大型小売店や診療報酬の改訂があった医療系の業種で求人数がみられるが、全体としては大きな動きがみられない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・建設系の業種で動きが出てくると見込まれるが、前年よりも減少することが予想される。そのほか業種の上がり目も感じられない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は増加しているものの、限られた業種での増加であり、それ以外の業種の求人数は依然として前年を下回っている。
	職業安定所（職員）	・新規高卒者の就職内定状況がほぼ前年並みであったことから、今後についても変わらないまま推移する。	
	やや悪くなる	-	-
	悪くなる	-	-